

ウォーカビリティーを意識した地域の 活性化・ブランディングに関する 民俗学的・地理学的研究

静岡大学地域創造教育センター

山本研究室・辻本研究室

教員：山本隆太、辻本侑生

学生：伊藤蒼生、小園明璃、加藤希彩、小谷心
海、坂本佳紀、清水萌衣、中山将吾、生田目藍
琉、西田舶十、森口真帆、大村卓人、田林花菜
子、豊島幸絵、伊藤さな

はじめに 研究目的

- ・ 藤枝市では第6次総合計画(2021)、藤枝旧市街地総合再生基本計画(2022)を通じて、商店街の裏道をはじめとした公共空間の高質化や風情ある川沿いの景観向上・整備等に取り組み、蓮華寺池公園から周辺商店街等への回遊性向上を図ってきた。
- ・ 静岡大学は、令和5年度に藤枝市の助成を受け、旧市街の回遊性向上に資する研究を実施した。その一環で住民WSを行った結果、「歴史まちあるきの活性化が必要」という住民の声を得た。

(研究の目的)

- ・ 2024年度は「ウォーカビリティー」「地域の活性化・ブランディング」をキーワードおよび目的とし、特に歴史に注目をしつつ、学生の参画も含めながら研究を遂行する。

藤枝旧市街地総合再生基本計画



令和4年10月



藤枝市歴史講演会 [ワークショップ同時開催]

近世東海道と藤枝宿

旧東海道や藤枝宿の歴史をむとく講演会を実施します。講演後、地域資源マップづくりも合わせて実施します。

日時

2023年12/24(日) 13:30 ~ 16:00

参加無料

会場

藤枝市生涯学習センター・藤枝地区交流センター西館 第一学習室
(藤枝市第一丁目5番5号)

講演 13:30 ~ 15:00

演題：近世東海道と藤枝宿

今日の講演は7テーマによって、近世東海道沿線の成立と沿線の歴史と藤枝宿をめぐる歴史についてお話しします。目次をお知らせと、1.近世沿線の成立、2.寛永期の交通政策、3.藤枝宿の歴史、4.藤枝宿を築いた人々、となります。

講師：本多 隆成 (静岡大学名誉教授)

藤枝市名誉教授 元東海大学藤枝分校学芸センター所長
元東海大学名誉教授 元東海大学藤枝分校学芸センター所長
「徳川家康の決断」中川新吾、「徳川家康」中川新吾、「近世の東海道」清水宣広、
「歴史の東海道を歩く」中川新吾、「徳川家康と近世」中川新吾 など著書多数

ワークショップ 15:10 ~ 16:00

旧東海道地域の 地域資源マップを作ろう

ファシリテーター：静岡大学地域創造学・学生
コーディネーター：本多隆成 (静岡大学名誉教授)

対象

どなたでも
ご参加いただけます

申込方法

メールまたはお電話にてお申し込みください

メール: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00]

静岡大学 地域創造教育センター 地域人材育成・プロジェクト部門 宛

※氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、年齢、電話番号をお知らせください。

※ご参加いただいた個人情報はイベントの運営のために利用させていただきます。

【申込締切】12月21日(木)まで

主催：静岡大学 地域創造教育センター
地域人材育成・プロジェクト部門
HP: <https://www.ic.shizuoka.ac.jp/>

研究内容 藤枝市の歴史観光

- 藤まつりをはじめとする数多くのお祭りが特徴
- 特産品、名所を巡るツアーも多数
- お祭り＝非日常のイベントを通じた交流機会は充実している
- 歩くという日常的な行為という観点でみると、東海道沿い（宿場）では日本遺産をテーマにした観光などがある。Stroly, (デジタル) スタンプラリーを中心とした歴史街歩きが可能。
- しかし、歴史観光マップが誰でも手に届くように配布されていない、東海道宿場としての歴史的魅力が十分に堪能しきれない、など課題もある。
- また、「藤枝は観光地じゃない」という認識、歴史的な町割についても課題があることがわかった。

歴史街歩き＝地図が必要 (歴史地理・ぶらたもり)

東京

八丁堀 (中央区)

(中央区立郷土資料館2023. 大八丁堀展
～よみがえるまちの歴史～)



1632年



1862年



1912年



現在

長野県松本市

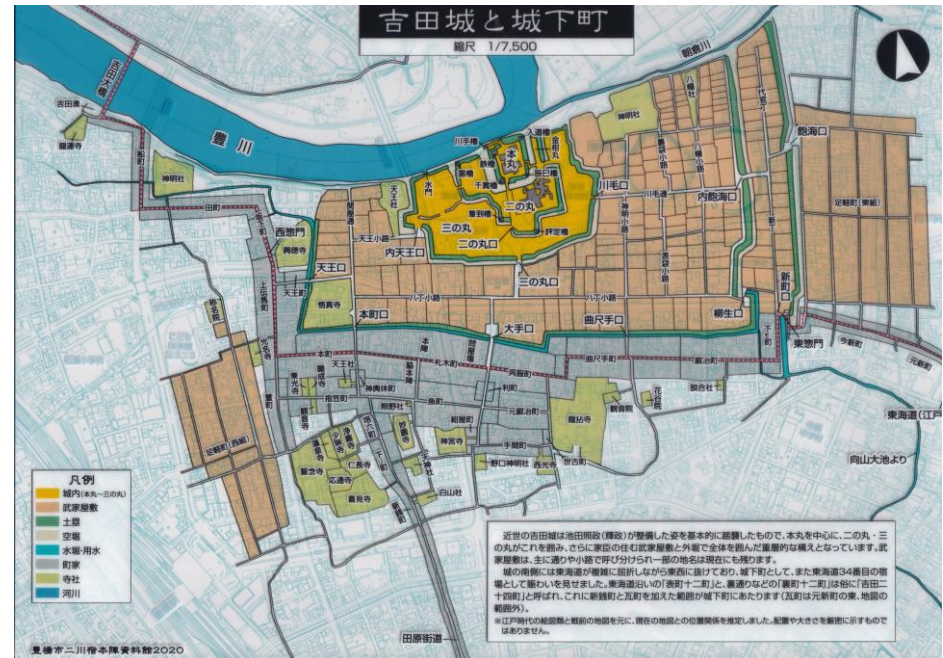
愛知県豊橋市

ディズニーランド (大三角)



出典：小島豊美・JHICO

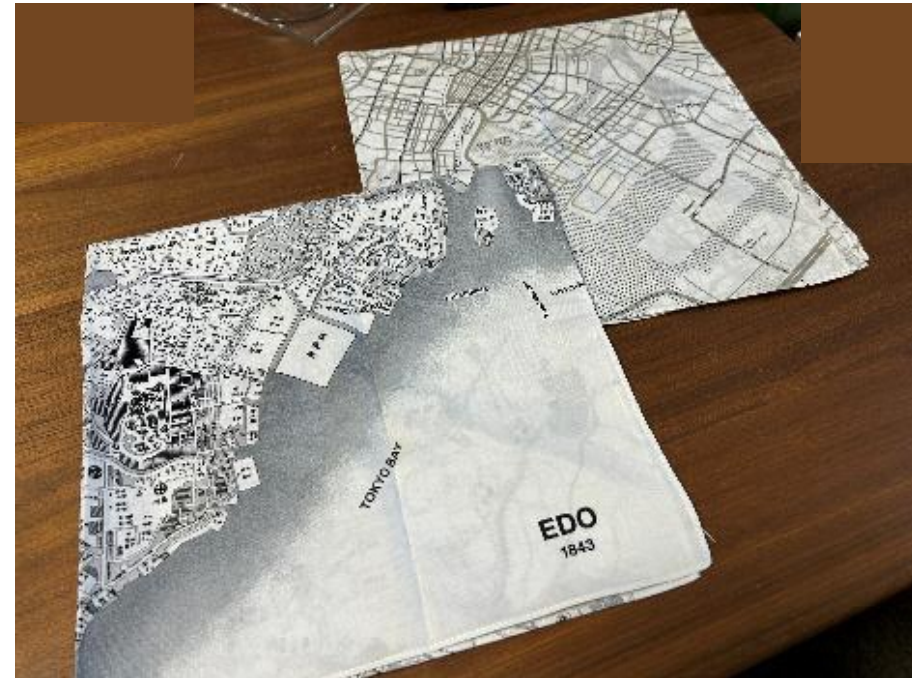
↓クリアファイルを販売 (2020年)



「お城のまち」 (松本市)

→歴史地図→ジオラマ・歴史街歩き

歴史地図の普及



透明地図はニッチすぎるが今でも販売されている（江戸開府400周年＝2003年の事業）

ハンカチ、クリアファイル(前掲)などが手に取りやすい

歴史街歩き開発に向けた地図資料

東海道分間延絵図（1806）



藤枝宿往還家並絵図（1842）



A) フィールドワークとGISによる変形

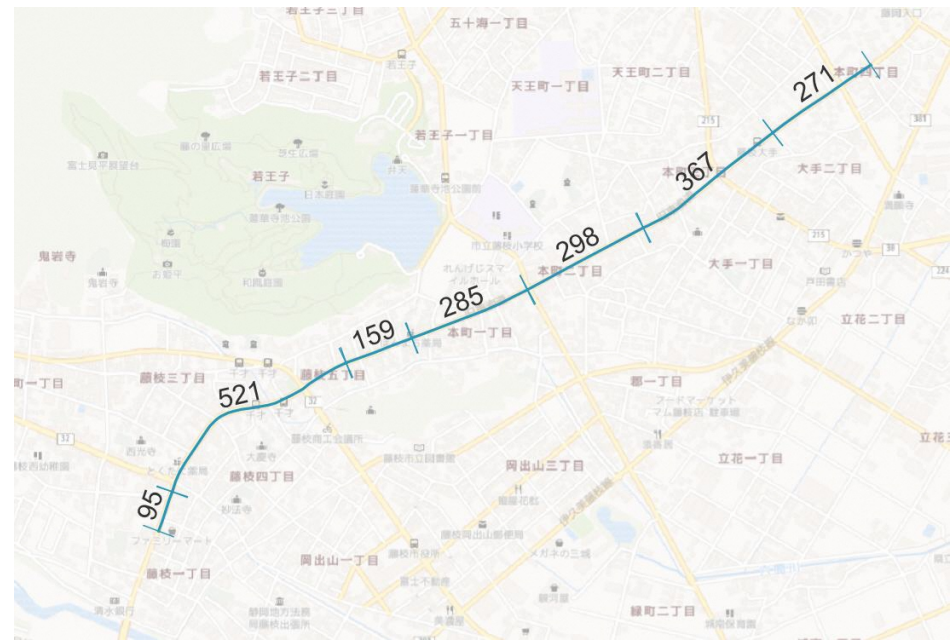
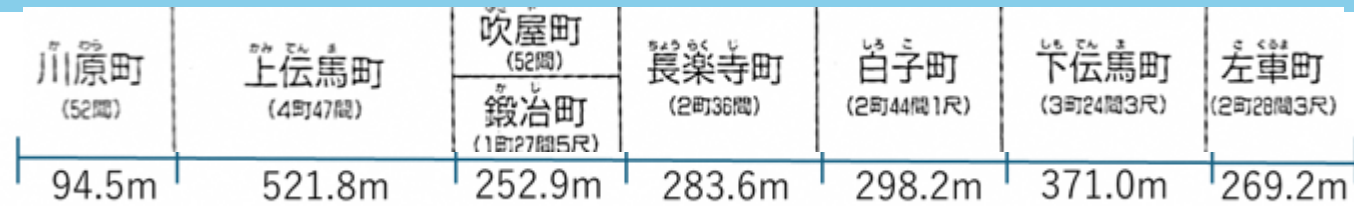
- フィールドで町割りの痕跡
= 街路，水路，橋の痕跡を探して位置情報を取得する（GPS）
- 取得した位置情報を基に，東海道分間延絵図を現代の地図に貼り付ける（ジオリファレンス）
※東海道沿いのみ



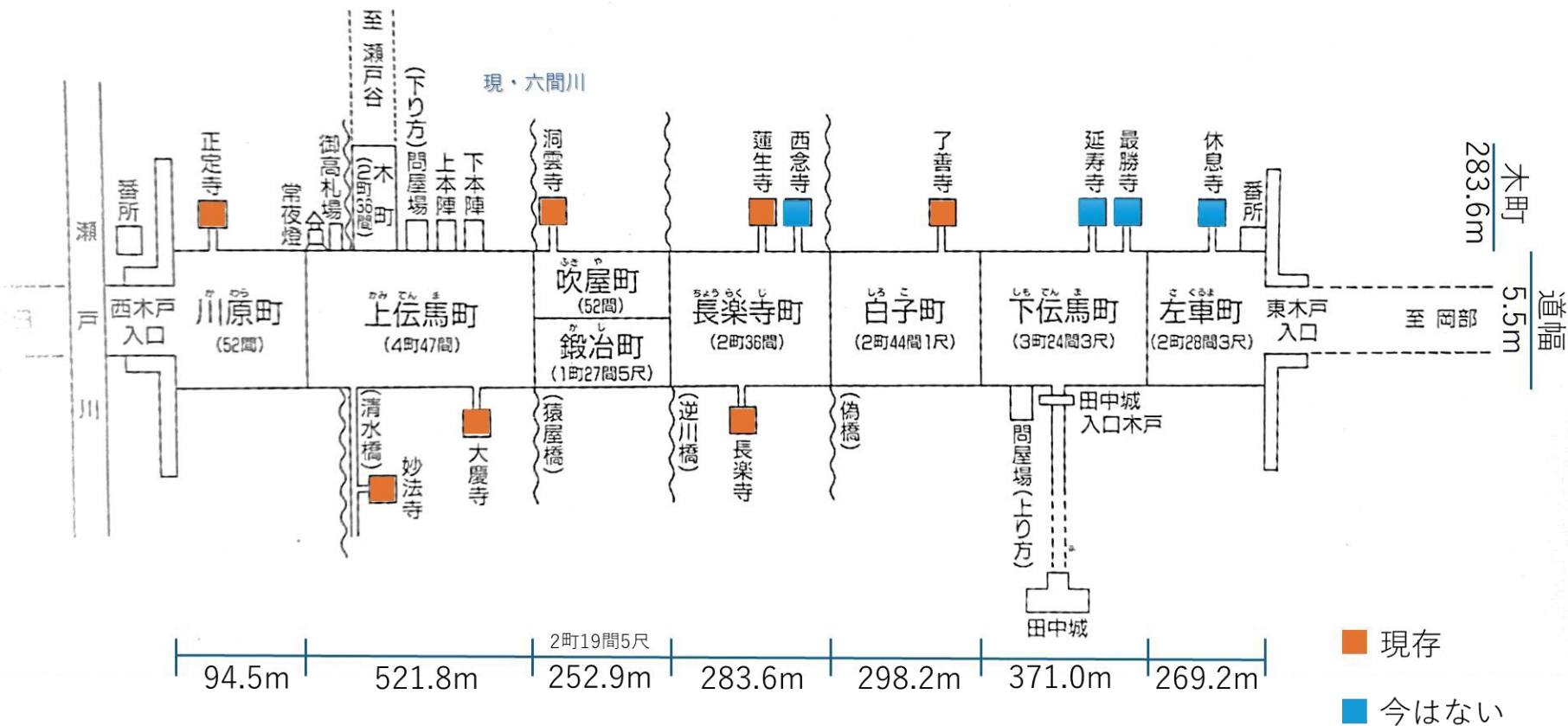
B) フィールドワークによる建屋の推定



GISによる町割検証：19町12間



成果 町割りの検証



民俗学の視点から

- 藤枝市を初めて訪れる外部の研究協力者（ラボラトリ文鳥・田辺裕子氏）とともに、歴史的町並みを意識しつつも、先入観を持たずに歩き回った。
- まちあるきで得た気づき（一部）
 - ✓ 現在すでに整備されている蓮華寺池公園周辺に加え、飽波神社～蓮華寺池～田中城あたりを訪問客が回遊するよう、誘導する仕掛けが必要なのではないか。
 - ✓ 具体的には、歴史研究の成果を活用し、ストーリーをつくることも考えられる。例えば城に通う下級武士が歩いていた道を体感するストーリーなどはどうだろうか？

成果と課題

1) ウェブGIS上でうごく歴史地図は作成できる

- 東京での歴史街歩きに使われるmapmap.tokyo主宰者山本氏を招聘し、歴史地図のGIS作業プロセス、オープンデジタル化（タイル表示の提供）について情報提供を得た。
- 自分たちで歴史地図をつくる工程から取り組む必要性がある。この点については今後、地元の中高生を交えてクラフトマップ的に取り組みたい。

2) 古地図の復元（途上）

- 藤枝の東海道分間延絵の区間を現代の地図に重ね合わせ、歴史を可視化するという方法をとった。しかし、町割りの区界が不明などの課題が残った。
- 今後、旧版地形図、都市計画図などの実測図を積算する歴史地理学的な地図の重ね合わせの手法を用いて検討する必要があることが判明した。

3) 藤枝宿歴史街歩きの可能性 まちをあるく

- 将来的には、歴史地図を片手に歩き回り、宿場町ならではの細かな区割り、曲がりくねった道などから歴史の片りんを感じ取る歴史街歩きができるような研究的な側面から整理したい。
- これを踏まえて、「城に通う下級武士が歩いていた道を体感する」などの特色を持たせた日常的な歴史街歩きもありえる。

市への提言

- ウォーカブルなまちづくりを推進するにあたって、青森県弘前市は人口規模が藤枝市と近く、また大学との関係も大切にする「学都」的な性格も共通しており、藤枝市に関係人口や教育を踏まえた街づくり推進を行う上で参考となる可能性が高い。
- 青森県黒石市は人口3万人を切る小規模自治体だが、同じく城下町であり、歴史資源を活かしたまちづくりを進めるとともに、ウォーカビリティーを意識した新市役所庁舎と新たな交流施設（「よこまち交流館」）が開設されたことで、新たに子どもたちの歩行導線がみられた。
- 住民主体の歴史まちづくりについては、南木曽町では戦後の社会教育を中心とする住民自治の取り組みが実を結んでいる。近年では松本市に注目が集まっている。豊橋市内の宿場町は歴史地図をクリアファイルにして販売しており、教育現場でも観光でも手に取りやすくしている。これらの取り組みは参考になるとともに、歴史ウェブでの提供として、藤枝市GISに歴史地図を実装することも考えられる。また、歴史地図ハンカチなどはお土産としても価値がある。